

鹿沼市文化協会 平成29年度通常総会後講演 2017/5/13 鹿沼市民文化センター
講演 「半田良平について」 副会長 小林守

・・・いま半田良平を考える。・・・

はじめに 生誕130周年を迎えた郷土の偉大な歌人、文学者 半田良平（1887明治20年生れ）について、もとより力足らずではありますが、小生が担当いたします。

地元研究者、故安野静治氏、小杉義雄氏、 顕彰会 初代会長渡辺政見、2代会長山口宏一郎氏

1 良平は教養の高い近代思想の学者の一面と、北関東の古層土着の意識を持つ素朴な野人の一面がある。・・・知性の田舎人、千葉省三、山本有三への支援など

“学者のマントを着た素朴な野人” “生来の真面目人間、誠実一筋”

阿部豊三郎「半田良平の歌と生涯」より

現実生活者・・・厳しい民衆生活のなかにあって・・・急進思想化する必然性

家意識、祖先・郷土一皇室崇拜 天皇制国家> 近代日本の国家権力構造的な矛盾

一君万民の全体主義、ナショナリズム

* 岩手の国民詩人 石川啄木（1886、明治19年生）と同世代、戦後啄木は晩年の社会主義的思想展開を大きく評価された。

* 国家と個人が耐えがたき矛盾のとき戦後世代はどうするか。教育勅語の亡霊

* 昭和17年 戦時国策として日本文学報国会が設立され、否応なく組織化された。良平は短歌部門の評議員となる。

* 天が下^{いえ}一つの宇となる日まで抗ふものはうちてしやまむ 良平（八紘一宇）

* 皇国にい^{すめぐに}のち^う享けたる幸いに応ふる道はただ一つのみ 良平

2 歌碑及び身边・時事・社会詠について

今こそ身边居常詠はもとより、時事・社会詠をもっと大きく評価すべきではないかと思う。 添付資料参照

3 参考資料

* 「鹿沼市史通史編 近現代」 第3節 鹿沼の近代文芸 より

* 「半田良平の生涯」 小林邦子 角川学芸出版 2004年12.25発行

* 「半田良平の歌と生涯」 阿部豊三郎 短歌新聞社 昭和45年5月1日発行

* 「鹿沼市史研究紀要 かぬま歴史と文化 No9 鹿沼の文学者 三」 2004・3

「歌人 半田良平の生涯と作品」 遺稿 安野静治

* 「とちぎの短歌」 渡邊幹雄著「芸術院賞に輝く半田良平」 下野新聞社 昭和60年刊行

* 、歌集「野づかさ」「幸木」、短歌論・俳句論「短歌新考」「短歌詞章」「芭蕉俳句新釈」「半田良平全歌集」国民文学社 1958発行など（鹿沼市立図書館より）